

東京新聞

夕刊

中日新聞東京本社
東京都千代田区内幸町二丁目1番4号
〒100-8505 電話 03(6910)2211

玉露園



飲んで美味しく
料理のアクセントとして大好評

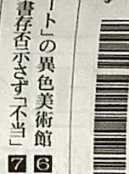
心茶
http://www.gyokuroen.co.jp

紙面から



今永、デビュー戦勝利
カブスの今永は先発でメジャー初登板し、6回2安打無失点初勝利を挙げた。(共同)

「樹アート」の異色美術館
森友文書存否不さず「不当」



家具素材「代打」シラカバ

家具産業が盛んな北海道旭川市や近郊で、メーカーや研究者が材料としてシラカバを活用する取り組みを続けている。身近に豊富にありながら、主な用途はバルブ用チップ。しかし家具素材として独特の魅力があるだけでなく、再生サイクルが早く、持続可能な森林経営を目指すことが可能という。

森林再生 ナラ、タモの成長待つ



●鳥羽山聡さんの工房で製作中のシラカバのソファ
●工房が宿泊施設に納めたシラカバの家具＝いずれも北海道東川町で(白樺プロジェクト提供)



「白樺プロジェクト」は2017年11月始動。メンバーは研究者ら10人で、展示会で家具を紹介したりサイエンスカフェやワークショップを開いたりして発信している。

絹のような光沢

広大な自然が広がる北海道でも、輸出や生活用・園芸のたけ職後にナラやタモなどの高貴な広葉樹が大量に伐採された。そこで北海道立総合研究機構林産試験場の秋津裕志さん(61)が研究の末、シラカバを代替材として利用し、広葉樹の成長を待ち森林を生き返ようという知人に呼びかけのがきっかけだった。

伐採も低コスト

秋津さんによると、シラカバを含むカンパ類は推計で北海道の森林の約11%を占める。工事後の道路脇など目当たりが良く目につく場所を育つことから伐採は低コストで済む、人の手で生育促進することも可能。樹液から化粧品、樹皮から薬を、丸ごと利用可能な点も魅力だ。

「ゆくゆくは自分たちで育てた木で家具が作れる。楽しみだ」と鳥羽山さん。現在のメンバーは50～60代がほとんどという「プロジェクト」を通じて若い人に刺激を与えたいと話している。

●「白樺プロジェクト」代表者 鳥羽山聡さん(左)、東川町で



北海道立総合研究機構林産試験場の秋津裕志さん(北海道旭川市で)



本社の新聞編集はすべて再生可能エネルギーの電力で回っています。